

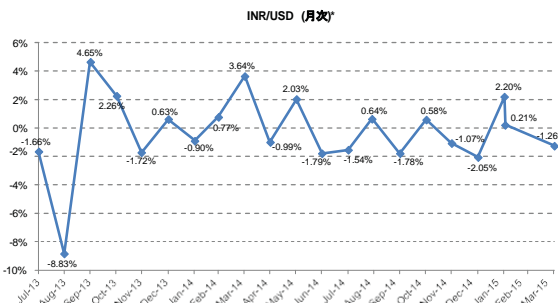
### 1年間のBRICS業績比較\*

インドのSENSEXはBRICSで2位に(1年間)



降順で表示(2014年2月28日~2015年2月27日)SHCOMP(上海総合指数)、BSE SENSEX(ボンベイ証券取引所)、MICEX(モスクワ証券取引指数)、IBOVESPA(ブラジルサンパウロ証券取引所)

### INR/USD チャート(2013年7月~2015年3月)\*\*



\*出典:ブルームバーグ

\*\* S&P

### 2015年3月までの外国人機関投資は126億USドル

3月の外国人機関投資はおよそ35億USドルで、年初からの合計投資額は126億USドルとなった。

### 外国機関投資は1750億USドルを記録

外国人投資家からの累計投資額は現在1750億USドルを超えており(11兆インドルピー)、外国の投資家たちがインドの資本市場に2014年~2015年だけで440億USドルを投じていることになる。中央預金サービスの最新データによると、外国人投資家は、2014年~2015年は株式に175億USドル、債券市場に262億USドルを投じている。

### SensexとNiftyは、2016年度は好調な滑り出し

BSE Sensexの2016年度は順調な滑り出しであり、300ポイント以上急上昇し、28,000の大台に乗った。Niftyは95.25ポイント上昇の8,586.25(2015年3月31日現在)。

### 2015年4月7日にインド準備銀行が発表した2015-2016年の隔月金融政策ステートメントの概要

- 短期貸出金利(レポ金利)は7.5%のまま据え置き、支払準備率は4%のまま据え置きで、法定流動性準備率規制(SLR)は21.5%を保持。
- 2016年度のGDP成長率の予測は7.8%で、これは2015年度の7.5%から上昇。2016年3月までのCPIインフレは5.8pcと予測。

### 中国市場の反発にもかかわらず、インドのFIIは依然として好調

外国機関投資家のインド市場への資金流入は中国市場の最近の反発の影響を受けないと専門家は予測している。ブルームバーグによると、CNX Niftyの利益は今年は18%増加すると予測されているが、一方、上海総合指数は13.5%増にとどまると予測。また、インドの2015年のGDP成長率は7.4%と予測されており、これは中国の予測成長率の7.4%よりも高い。中国のGDP成長率は過去25年間で最低になると予測されている。

### インドは外部からの金融ショックに対する準備ができている:IMF

インドは他の新興市場経済と比較して、外部からの金融ショックに対処する姿勢が整っているとIMFのヘッドであるChristine Lagarde氏は述べている。Lagarde氏は、「インドは経常赤字を削減し、国際準備高を拡大した」とも述べた。

### インドはアジアで最も人気の株式市場:クレディスイス&BoFA-ML

クレディスイスとバンクオブアメリカ・メリルリンチ(BoFA-ML)がそれぞれ行ったファンドマネジャーを対象とした2つの調査では、インドは投資先としてアジアで最も人気の株式市場であるという結果が出ている。調査によると、長期ビジョンを持つ外国人投資家は、インド市場と接点を持つことを望んでおり、これはその他の新興市場での利益の伸びが低いためである。

### インド経済は好調:モルガンスタンレー

モルガンスタンレーは今年インドのインフレが平均5%になると予測しており、インドは低価格のまま高成長が持続する長期スパンに入っていると述べた。モルガンスタンレーはインフレ概況において前向きであり、小売価格指数は、5.8%の予測に対し、この12月に4.75%へと低下すると予測。

### インド経済は次財政年度に8%成長する見込み:Fitch

Fitchは、グローバル・エコノミック・アウトックの修正データに基づいて、インドがBRIC4か国で唯一成長が加速する国となり、次の財政年度には経済成長は8%を記録し、2016-2017年には8.3%になるであろうと述べている。

### CPI&インフレ

2月のCPIインフレは、1月の前年比~5.2%に対し、5.4%増となった。11月に発表された3.3%からインフレは上昇しているが、対象指標はここ数カ月の間は横ばいで、対象インフレにおいて、最小限の連続増(前月比)となった。CPIインフレの高まりは、主にはベース効果によるものである。おそらくこれは2月15日が最高値だと思われる。CPIインフレは今までのところ、季節外れの雨により野菜価格が急騰した影響を受けている。CPIインフレは2016年1月のインド準備銀行の目標値6%内にはとどまっており、今後もこれを維持すると見られている。

UTI International (Singapore) Private Limited (以下「UTI IS」)は、シンガポール金融庁(MAS)の規制を受け、資本市場サービスライセンスを保有し、ファンドマネジメントに関する規制対象業務を行っています。UTI IS は、このようなレポートの完全性や正確性に関して、一切の責任を負わないものとします。レポートは、株式のオファーに相当するものではなく、推奨、意見の主張、広告でもありません。ステートメントの内容は、特別な目的、金融機関やこのステートメントを受け取る特定の人のための特別なニーズに関係なく、情報提供のみを目的としており、そのような人には、ファンドの株式の購入契約を行う前に、金融アドバイザーからのアドバイスを求めることをお勧めします。もしそのような人がそのようなことを行わなかった場合、その人はその投資が自分に適しているかどうかを慎重に考慮すべきです。ここで述べられているファンドの過去の業績は、将来的な業績を示唆しているとは限りません。

ここで説明されているファンドは、シンガポール金融庁(以下「MAS」)によって認められた制限された計画であり、機関投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)および適格投資家(用語は証券先物法(第 289 条)(以下「SFA」)で定義されている)にのみ提供または販売されています。免責金融アドバイザーとして、UTI IS は、FAA の下、規則 33、34、35、36 または金融アドバイザー法(以下「FAR」)の他の規則に従って、「機関投資家」「適格投資家」「海外投資家」「シンガポール国民ではない」「シンガポール永住者ではない」「シンガポール国民または永住者に全てまたは一部依存していない」シンガポール国外に住む個人、またその他の例としては、シンガポールに商業拠点を置いていないまたは物理的に所在していない人)に関して対象となる免責に基づくことができます。

[www.utifunds.com](http://www.utifunds.com) にアクセスしてください